| | |
|---|---|
| 研究課題 | 小中外国語教育の円滑な接続を図り，グローバル化に対応する授業カリキュラムの開発 |
| 副題 | ～ＩＣＴ機器を活用したリスニング・スピーキング能力の向上～ |
| キーワード | 外国語教育，ＩＣＴ機器，電子黒板，タブレット，グローバル化 |
| 学校名 | **鉾田市立旭中学校** |
| 所在地 | 〒311-1415<br>茨城県鉾田市造谷８６３－５ |
| ホームページアドレス | http://www.city.hokota.ed.jp/asahi-jhs/ |

## １．研究の背景

本校は農業を基盤とする地域に位置し，生徒は素直でひたむきな反面，自らの考えを積極的に述べることを苦手としている。また，平成２９年度に茨城県教育委員会指定で「タブレット活用による英語のスピーキングチェック」を実施した結果，リスニングやスピーキングの能力に課題が見られた。実際の使用場面を映像で確認し，ネイティブな音声に慣れる活動が少ないことが要因として上げられた。また，本市では新学習指導要領（平成２９年３月告示）の前倒しで，小学校から英語科を導入している。新小学校学習指導要領においては「外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。」とある。ある程度の英語に慣れ親しんだ児童が中学校英語の導入段階でつまずいたり，英語嫌いになったりしない方策を講じなければならないと考えた。4 月に行った英語に関する全校生徒へのアンケートの一つで「英語を使って何をしたいか」という質問に対して「外国人と会話したい」（43%），「海外旅行をしたい」（38%），「外国人と仕事をしたい」（10%）という結果から，英語を日常的に使いたいと考えている生徒が多いことが明らかになった。また，将来は海外輸出を視野に入れた農業経営を夢見る生徒もおり，この地域の将来を担う人材を育てていく必要があると感じた。そこで，ＩＣＴ機器を活用してリスニングやスピーキングの能力向上を図る授業カリキュラムを開発し，グローバル化に対応できる人材育成を目指したいと考えた。

さらに，小学校英語から中学校英語へのスムーズな接続ができるよう英語の技能を身に付　けるだけでなく，「何を伝えるか」「英語はどれを使うか」を思考・判断できる能力を身に付　け，即興的にコミュニケーションできるようにしたいと考えた。そのためには，実際に使用する場面や状況を視覚的に把握した上で，英語のインプットとアウトプットの能力をバランスよく育成する効果的な言語活動を行う必要がある。ＩＣＴ機器の活用は，これらの課題を解決する手段として有効であると考えた。

## ２．研究の目的

本校では「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に取り組んでいる。英語科においては，「グローバル化に対応する授業カリキュラムの開発」をテーマに研究を推進している。主体的にコミュニケーションしようとする態度を育成するとともに自己の学習活動を振り返り，次の目標レベルにつなげていくこと

をねらいとした授業展開を目指している。

そこで，年度当初に「身につけたい表現レベル」の一覧を生徒に提示し，ＩＣＴ機器を活用しながら，英語学習に対して興味・関心をもち，リスニングやスピーキングの能力向上を目指すプログラム開発をねらいとしている。具体的には以下の三点である。

(1)　ネイティブな英語の発音と使用場面の視聴を通して，小学校から中学校への円滑な接続を図り，身に付けたい表現レベルの向上を目指す。

(2)　英語科における授業カリキュラムの開発を行い，地域の特色や身の回りのことをアピールできるプレゼン能力を育成する。

(3)　英語の授業公開を行い，ＩＣＴ機器活用の有効性を検証し，鉾田市の英語教育の発展に寄与する。

## ３．研究の経過

今年度の研究の経過については以下の通りである。英語科の教員を中心に近隣の小学校とも連携しながら研究を推進した。

| 月　日 | 取　組　内　容 | 評価のための記録 |
|---|---|---|
| 4 月 11 日 | 校内英語科研修会<br>・校内研究組織，研究主題，研究計画の協議 | 研究協議の記録 |
| 5 月 11 日 | 校内英語科研修会<br>・授業研究，検証方法の確認 | 授業風景のビデオ・写真 |
| 6 月 29 日 | 第 1 回茨城県教育研修センター訪問指導<br>・ＩＣＴ機器の効果的活用法 | 授業後の研究協議の記録 |
| 7 月 17 日 | 鉾田市教育会英語研究部研修会<br>・講師：江戸川大学教授　波多野和彦先生 | 授業参観と研究協議の記録 |
| 11 月 20 日 | 旭中学校区授業公開<br>・授業研究と研究協議 | 授業参観アンケート（参観者） |
| 12 月 11 日 | 第 2 回茨城県教育研修センター訪問指導<br>・授業研究と研究協議 | 授業後の研究協議の記録 |
| 2 月 22 日 | 校内英語科研修会<br>・研究の分析と考察 | 英語学習に関するアンケート |
| 3 月 | 校内研究のまとめと報告書等の作成 | 研究報告書 |

## ４．代表的な実践

「グローバル化に対応する授業カリキュラムの開発」を推進する中で，特に電子黒板やタブレットを活用した学習活動に焦点を絞り研究実践を紹介する。

(1)　電子黒板を活用した英語学習

①　インターネット動画の活用

英語科授業の帯活動として，英語の歌の動画を観ながら歌う活動を取り入れた。

英語の歌を歌うことで，生徒の英語学習に対する興味・関心を高め，楽しく取り組める雰囲気を醸成するとともに英語学習に対する
苦手意識をもたないよう配慮した。従来は歌詞の書かれたプリントを見ながら，ＣＤに合わせて歌っていたが，図１のように電子黒板を導入したことで，歌詞の書かれた動画を観ながら真似ることで，文字と音の関係を視覚的に捉えながら歌うことを取り入れた。

図１動画を観ながら歌う生徒たち

② 電子黒板を利用したコミュニケーションサイクルの提示

リスニング・スピーキングを高めるために開発した学習シートを使い，「身に付けたい表現」を提示したあと，グループで会話が継続できるようコミュニケーションの仕方をサイクル化した図を電子黒板で提示した。トピックに基づいた会話活動をグループで行う際，「話題を決める」→「自分のことを話す」→「グループメンバーに質問する」→「他の友達のことを話す」→「他の友達について質問する」など会話が継続するためのサイクルやモデル文を瞬時に示すことで効率的に学習を進めた。また，それらを参考に自己表現を考えさせることで会話が継続できるようにした。

③ ビデオチャットを使用したコミュニケーション活動

「開隆堂　Sunshine 1 My Project　2」の単元で，２学期に学習した文法（３人称単数現在，人称代名詞，疑問詞等）を総合的に使用して人を紹介する活動を行った。

図２のように，これまで面識のない，初めて会う外国人に対して，ビデオチャットを通して質問をし，質問したことをまとめて紹介文を作る活動である。生徒は１人１回他の生徒と同じの質問をしないようにして情報をまとめたので，他の生徒の質問にも注意を払って聞いていた。

図２　ビデオチャットをする生徒

外国人に対して自分たちのことをアピールするために「何を伝えるか」「英語はどれを使うか」を判断しながらコミュニケーション活動を行った。

(2)　タブレットを活用した英語学習

①　プロンテスト社の発音検定ソフトの活用

１学年において，授業のウォーミングアッププとして，レベル１からレベル１０まで「身に付けたい表現レベル」として１０文程度の文を与え，１文ずつ正しく読む活動を行った。

図３のように，文字で示されたモデル文の音声を聞き，そのあと自分の発音を録音し，検定ソフトに判定してもらい点数化する。

図４のように，生徒は点数をアップさせるため，もう一度モデル文の音声を聞き直し，再度録音し高点が出るまで続けることができる。

読むのにかかった時間，音の高低，音の強さなどを多角的に分析して評価できるため，文全体から，英語らしさの特長を捉え，練習することができた。

また，１学年で取り入れるたことで，早い時期からネイティブな発音にふれることができた。

図３　発音検定ソフトの画面

図４　再挑戦する生徒たち

②　タブレットを活用したプレゼンテーション練習

「開隆堂　Sunshine 3　My Project 7　　あの人にインタビューしよう」の単元で，インタビュー活動を行った。このインタビュー活動は即興的に話す活動とは違い，予め準備をしてインタビューに臨む活動である。紹介する人の略歴が事前に与えられ，それを読み進めながら「どんな質問がふさわしいか」「相手の話を引き出す質問は何がよいか」を考える。

そのあと，図５のように，タブレットを活用し，カメラを意識してインタビュー活動を行いながら録画し，単元のまとめとして発表会を行った。タブレットで撮影することで，アイコンタクトや発音を意識し，録画を何度も再生して改善点を考えるようにした。

会話でよく使われる相づちの表現（I see. Really?　Sound good!　など）や日常生活で使う語彙などを繰り返し練習できる学習プログラムを取り入れ，より楽しく会話が継続できるようにした。

図５　インタビュー活動の録画の様子

(3)　ＩＣＴ機器を活用した出前授業と授業公開

学区内の小学校で，モニターを活用し出前授業を行った。ビデオに出てくる中学生の自己紹介を小学生に聞かせ，その内容を理解させる活動である。

５・６年生の英語の授業で，図６のように，中学生の自己紹介動画を観て，その人の誕生日を聞きとる活動を行った。また，動画を観た後は自分たちも中学生のように自己紹介を行った。

さらに，中学生が有名人を紹介し，その人の出身地を小学生に尋ねるクイズ形式の動画では，小学生にとって，中学生が英語を話す身近なモデルとしてよい手本となっていた。

また，本校を会場にＩＣＴ機器を活用した授業公開を行い，近隣の小中学校教員が参観する機会をもった。生徒が主体的にコミュニケーションをしたり，電子黒板やタブレットを活用したりする姿を参観していただいた。

さらに，絵を見て英語で答える問題は，電子黒板を使うと容易に類似問題を出すことができるので，効率的な授業展開が可能になることを示す模範となった。

図６　出前授業の様子

図７　公開授業をする英語科教員

５．研究の成果

(1)　授業の様子から

○　ＩＣＴ機器を活用したことで，生徒が主体的にコミュニケーション活動をする場面が多く見られた。特に，タブレットで自己の学習活動を振り返ったり，再度復習したりして，次の目標レベルに全員がスムーズに入ることができた。

○　音声と文字の認識が苦手な生徒にとっては，何度も見直したり聞き直したりできるので，英語への苦手意識を減少させることに効果があった。

○　電子黒板を活用した歌の活動では「先生，次はこの歌をやろうよ！」と提案する生徒がおり，授業開始の５分～７分前には English Room に来て着席する生徒が多く，英語学習を楽しみにしている様子が見られた。

(2)　各種調査とアンケート結果から

○　３学期に実施した「茨城県学力診断テスト」では，昨年課題があったリスニング問題や表現力の問題で，県平均より＋８ポイント程度上回ることができた。タブレットを活用し，相手に対して「何を伝えるか」「どのような英語を使うか」を思考・判断し，表現する訓練を繰り返しできたことによる成果である。

○　図８の４月と２月の全校生徒アンケート調査において，リスニングやスピーキングに自信をもてる生徒が増えたことが分かる。また，図９の生徒の感想からもビデオチャットの活用は，リスニングやスピーキングの能力向上に効果があったと評価できる。

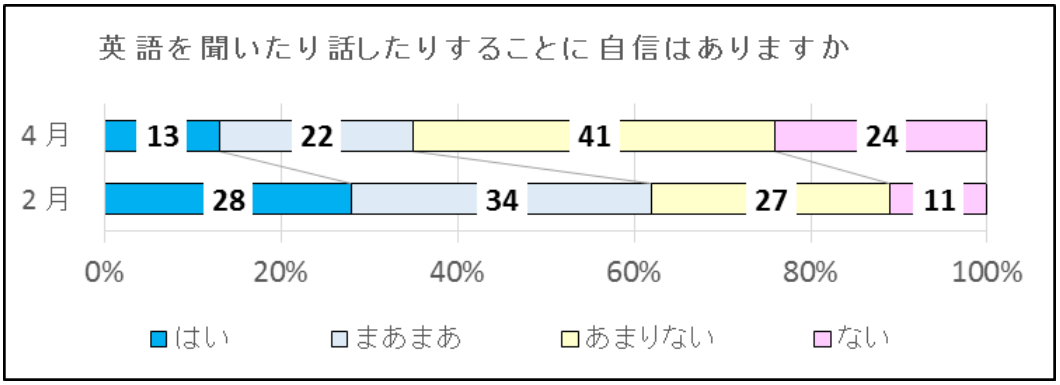


図８　英語学習に関するアンケート

・　聞きとってもらえるか心配だったけど，伝わってよかった。もっと英語で話せるようになったら，たくさんの人と話したい。
・　自分の話す力をためせてよかった。まだまだ発音やジェスチャーなどがうまくいかないので，改善していきたい。
・　初めて会う外国の人に英語で質問し，伝わるか心配だったけど，無事に伝わった達成感を味わえた。

図９　リスニング・スピーキングに対する生徒感想

## ６．今後の課題・展望

今回の研究では，海外の学校との交流活動まで発展させるには時間的な余裕がなかったが，　本市ではオーストラリアのケアンズ市とホームステイによる交流事業をしており，将来的に　は学校間での交流ができる可能性がある。自分たちの住む地域の特色や産業などを相互に紹介し合うことで，海外のことを身近に感じてもらえる海外交流プログラムを工夫したい。

## ７．おわりに

将来，ＡＩやロボット技術が進歩したとしても，人間同士のコミュニケーションは欠かせ　ないものである。グローバル化していく社会を生き抜くためには，今後も英語を学ぶ環境整備が必要だと感じている。最後に，本研究のためにご指導いただいた江戸川大学教授の波多野和彦先生，茨城県教育研修センターや鉾田市教育委員会の指導主事の先生方，そして，研究推進のために協力してくれた本校教職員に心より感謝申し上げます。

## ８．参考文献

・小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）
・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）